科目名			担当教員	
ボランティア論			小野　芳秀	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
AB1002	2	1	RorSR（講義）	1年以上
生成AI利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2026年度は開講しません（次回開講は2027年度）。
※オンデマンド・スクーリングは2026年度も開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

ボランティアが地域社会に果たす役割、また地域社会から寄せられる期待は、年々大きくなっています。世間一般にいわれているボランティアとは、どのようなものなのでしょうか。また、なぜ地域社会ではボランティアが必要とされるのでしょうか。ボランティアの基本的理念、またボランティア活動の具体的事例や活動の現場で今どのようなことが問題になっているのか理解を深めましょう。

本科目のレポートの２単位めの課題は、担当教員が課題を提示する「出題方式」（2-1）、または学習者が関心のあるテーマを自由に課題として設定する「選択方式」（2-2）のいずれかを選択してください。

■到達目標

１）ボランティア活動の定義について説明できる。
２）ボランティア活動の意義と社会的役割について説明できる。
３）地域社会におけるボランティア活動の実践者あるいは推進者として行動するための知識を理解し説明することができる。
４）ボランティア活動に関わる制度およびその活用法について説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%＋スクーリング評価 or 科目修了試験40%

■教科書・参考図書

【教科書】

柴田謙治・原田正樹・名賀亨編『ボランティア論―「広がり」から「深まり」へ』みらい、2010年

（最近の教科書変更時期）2010年８月

（スクーリング時の教科書）スクーリングにあたって、特に教科書は使用しませんが上記の指定教科書を参考図書として持参されることを推奨します。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

わが国の少子高齢化の急速な進展に伴い、福祉施策による公的サービスは財政的逼迫あるいは人員不足等による限界が生じています。地域住民が自立して安心・安全に生活するためには、インフォーマルな支援が提供される仕組みづくりが不可欠であり、その一つの担い手としてのボランティアへの期待は益々高まっています。地域社会における福祉コミュニティの構築に、ボランティア活動が果たす役割と可能性について共に考えましょう。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ボランティアとは何か	ボランティアの定義・性格と関係思想の歴史的変遷
2	ボランティア活動の実際①	ボランティア活動のマネジメント
3	ボランティア活動の実際②	災害ボランティア・ＮＰＯとボランティア
4	ボランティアを支える仕組み	ボランティアセンターとコーディネートの実際
5	地域福祉とボランティア	地域におけるボランティア活動の実際
6	対人支援とボランティア	対人支援ボランティア活動の実際
7	ボランティア活動の展望と課題	地域福祉の推進と自立生活支援
8	講義のまとめ補足・質疑応答	補足・質疑応答
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

授業では板書とＩＣＴを活用し資料を配付する。

■スクーリング　評価基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%）で評価。スクーリングで学んだ内容を踏まえ、試験問題に沿って自身の見解をどれだけ論述できるかを問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

ボランティアの意義と役割について教科書等を参考にしながら自身の考えをまとめてから講義に臨んでください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

ボランティア活動によって解決が期待される自身の生活環境における身近な問題、あるいは社会が抱える問題について考えてみましょう。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ボランティアとは何か (第１章)	ボランティアの性格、目的、関連する思想について理解する。 キーワード：自発性、ボランタリズム、利他主義、互酬性	教科書をよく読み、ボランティアの性格、関連する思想について理解を深める。
2	ボランティア活動の現状と課題 (第２章)	ボランティア活動の現状、課題と動向について理解する。 キーワード：特定非営利活動促進法（NPO 法)、地縁型組織、テーマ型組織、CSR（企業の社会的責任）	教科書をよく読み、内容を理解する。なお教科書の表 2-3「NPO 法人の活動分野」は現在 20 分野となっている。どの分野が追加されているが自身で調べ確認しておくこと。また認定 NPO 法人制度についても調べておくこと。
3	ボランティアと現代社会 (第３章)	インフォーマルサービスの担い手としてのボランティアの意義と価値について理解する。 キーワード：インフォーマルサービス、福祉コミュニティ、ＱＯＬ、社会福祉協議会、ボランタリーセクター	教科書をよく読み、内容を理解する。 教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
4	日本におけるボランティアの普及・推進の歩み (第４章)	日本におけるボランティアの普及・推進の歩みについて理解する。 キーワード：COS、セツルメント運動	教科書をよく読み、内容を理解する。 教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
5	ボランティア活動に期待される社会的役割 (第５章)	学び・自己実現の装置としてのボランティア活動の意義、期待される社会的役割について理解する。 キーワード：ノーマライゼーション理念、ソーシャルアクション	教科書をよく読み、内容を理解する。 教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。ボランティア活動が「地域福祉の担い手」にとどまらず、ボランティア自身の「自己実現＝生きがい」につながるとはどのような意味か自分なりに整理してみる。
6	地域社会のボランティア (第６章)	これからの社会に必要とされる地域社会のボランティアについて改めて理解する。 キーワード：ボランティアセンター、ソーシャル・インクルージョン	教科書をよく読み、内容を理解する。 教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
7	環境とボランティア (第７章)	環境ボランティアの具体的活動について理解する。 キーワード：環境活動、環境カウンセラー	教科書をよく読み、内容を理解する。 教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
8	災害ボランティア (第８章)	災害ボランティアの実際、留意点ついて理解する。 キーワード：災害サイクル、自立のためのボランティア、災害ボランティアセンター	教科書をよく読み、内容を理解する。 教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。また、「東日本大震災」等の大規模災害において、被災者の生活復興に関してどのようなことが課題となっているのか自身で調べておくこと。

9	国際ボランティア (第９章)	国際ボランティアの実際、留意点ついて理解する。 キーワード：NGO、シンパシー、エンパシー	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
10	ボランティア学習 (第 10 章)	ボランティア学習の実際、留意点ついて理解する。 キーワード:ボランティア学習、インフォーマル・エデュケーション	教科書をよく読み、内容を理解する。 教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
11	ボランティア活動支援とボランティアコーディネーター (第 11 章)	ボランティアコーディネーター、ボランティアセンターの意義と役割について理解する。 キーワード：ボランティアコーディネーター、ボランティアセンター	教科書をよく読み、内容を理解する。 教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
12	ボランティア組織の運営 (第 12 章)	ボランティア組織の運営と人材育成について理解する。 キーワード：OJT、Off-JT、SD	教科書をよく読み、内容を理解する。 教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
13	ボランティアの可能性と展望 (第 13 章)	ボランティアの可能性と展望について理解する。 キーワード：ボランタリズムの逆説	教科書をよく読み、内容を理解する。
14	先人から学ぶボランティア (終章)	日本社会の性質とボランティアに関する考察においてボランティアがどのように捉えられているのか理解する。 キーワード：主体性と互酬、双方向性	教科書をよく読み、内容を理解する。
15	学習者自身の考察 (第 1～終章)	学習者自身でボランティアの意義と役割について考察する。 キーワード：自身にとってのボランティア	教科書の第 1 章から終章までの学習を踏まえ、自身にとってのボランティアの意義と社会的役割について考察してみる。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め (2-1 または 2-2 のいずれかを選択)	**2-1（出題方式）** ボランティアコーディネーターの役割と意義について説明し、ボランティア活動を推進するうえで具体的にどのような取り組み、あるいは仕組み（システム）作りが考えられるか、あなたの自由な意見を述べなさい。 **2-2（選択方式）** ボランティアに関する内容であなたにとって関心のあるテーマを一つ自由に選択し、そのことに対するあなたの自由な意見を述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

テキストは一通り目を通されることをお勧めします。各単位の課題ごとの、指定箇所をよく読んで理解を深め、キーワードを参考にしながら課題を整理しましょう。

２単位めの課題をレポートに記載する際は、「2-1」または「2-2」の番号を明記してください。**レポート学習が初めてという方は、「2-2」の「選択方式」から取り組んでみてください。**

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

2-1（出題方式）

テキストの第 11・12 章を参考にボランティアコーディネーターの必要性や有用性について述べてください。また、地域におけるボランティア活動を活性化するための方策についてあなたの自由な意見を述べてください。実際の取り組み事例等の紹介でも構いませんが、その場合、現在抱えている課題や改善案についても述べてください。

2-2（選択方式）

ボランティアについて関心のあるテーマを自由に選び、構成（図 1）を参考にレポートを完成させてください。（例）は、あくまでもレポートの内容を具体的にイメージしていただくための参考例です。例示にとらわれることなく自由に作成してください。

①タイトル
②序　　論
③本　　論
④結　　論
（⑤参考文献）

図 1 ：「2-2」課題のレポート構成

①タイトル→（例）「ボランティア組織の運営における個人負担を軽減させる方法について」等。

②序　　論→レポートで「何について書こうとするのか」を明らかにします。また、何故このテーマを選択したのか自身の動機や問題意識について述べてください。

（例）「ボランティア団体が特定の個人に負担を強いる形で運営されている場合、どのようにしたら個人の負担を軽減することができるのか、組織運営方法の改善策について考えてみたい」等の内容。

③本　　論→「序論」で提起したテーマについて具体的にどのようなことが課題になっているのか、それに対して調べた内容、具体的解決策や自身の考え等を自由に述べてください。

（例）「実際にどのようなことが問題となっているのか」、「調べた結果どのような解決策があるのか」、「課題に対して自身はどのような解決策を考えるのか」、「自身はどのようにその問題を考えるのか」等。

④結　　論→序論で述べたテーマの「答え」についてまとめてください。

（例）「以上、〇〇という課題に対して、～という解決策があることについて述べた」等の内容。

⑤参考文献→引用や参考にした文献・資料等があれば明記してください。表記方法の詳細については『学習の手引き』等を参考にしてください。「番号」、「著者名（編者名）」、「書名（論文名）」、「雑誌名・巻数」、「出版社」、「出版年次」、「引用ページ」（特に引用したページがなければ「出版年次」までの記載で可）の順。

（例）　1）柴田謙治・原田正樹・名賀亨　編『ボランティア論―「広がり」から「深まり」へ』みらい，2010 年　p.78

課題テーマの例としては、「中高生の学校教育におけるボランティアの単位化の是非について」、「善意とボランティア活動について」、「自身のボランティアに対するイメージ」、「ボランティアに関する新聞記事から考えたこと」、「ボランティアの運営に関すること」、「ボランティアを受ける側からの視点」等、ボランティアに関係するテーマであればどのようなものでも構いません。

◆2 単位め選択問題のレポート内容を学習に関する研究データまたは教材として活用させていただくことにつきましてご理解とご協力をお願いいたします。なお、レポートの使用にご同意いただけない方は、レポートの 1 ページ目の余白にその旨を明記してください。レポートは上記の目的以外、個人が特定される形での使用はいたしません。なお、使用の諾否がレポートの評価に反映されることは一切ありません。

科目修了試験

■評価基準

試験問題に沿って自身の見解や適切な解答が記述されているかを問います。
教科書の内容の理解度を評価します。